



平の映畫界

大岡政談

エピソード

日活に歸つた伊藤監督... 大岡政談の常態のストーリー...

大岡政談の常態のストーリー... 大岡政談の常態のストーリー...

大岡政談の常態のストーリー... 大岡政談の常態のストーリー...



大岡政談の常態のストーリー...

診療開始 耳鼻咽喉科専門 鈴木正男

生花教授 須藤まつ子

腸胃科 鈴木村松

春夏向の小供洋服生地 新柄レース

タクシーの御用命は 昭和三十三年

無料検眼 TOKIWAYA 眼鏡は...

三井の浴衣デー 婦人倶楽部浴衣音曲ゆかた

三井の浴衣デー 婦人倶楽部浴衣音曲ゆかた

蜂ブドウ酒 品質本位 佛國の葡萄

木村病院 平新川町十九

平町上水道擴張 七月末起債認可

工事委員物色しつゝ 着工準備の町當局

平町の上水道擴張工事に伴ふ必要あり現在の分野
二十萬圓の起債認可申請等からして議員の約半数十
書は幾多の曲折を経た末漸三四名位を希望するもの
大蔵省に轉じて七月多様であり大體その位に
未だには認可の指令に接されてゐる。

平局跡を 改造して

商店にする

警備銀行の休業によつて一
推して該工事が相當大仕事
なものであるだけに中途に
於て種々な問題が起る事は
豫想せねばならず斯くして
更に竣工が遅れる結果とな
るのみならず着手後は内部
から故障等起るの起らぬ様
に充分に備へる必要あり

途中脱線 難を免る

高坂で試合 平野

平野町内の物色であるが
委員を選ばなければならない
で目下内々物色であるが
委員を選ばなければならない
で目下内々物色であるが

不動澤礦の陰謀は 用意周到な犯行

主犯村松は起訴か 取調べと一段落

炭礦関係者は勿論一般に
かした不動澤炭礦陰謀事件
は主犯村松松雄(三〇)の
罪によつて一段落を告げ
後の人物は検察を見るに
ない模様であるが村松

町政審議流産 萩原野崎の軋轢

勢力盛返しに躍起 今後の推移が注目

既報平町の五派中政友系
の交友一新、中正派十八
の交友一新、中正派十八
の交友一新、中正派十八

實社會生活は 政治に支配さる

神 木 生

社會生活は所詮にその時
治に支配される、政治家が
常に一般民衆の幸福の爲に
働き又働、事が、されば

風邪のせいで 石井生

人間といふものは自分 都合が悪いことが在る

風邪の氣味にてと書か
て居る、誠に人間にとつ
て居る、誠に人間にとつ

平鮮魚取引所跡に 青物市場を設置

果物迄取扱ふ 認可され近く開業

平町白銀町の石城鮮魚商
合取引所跡物は市場の所
に取掛かるといふこと

飯を食はせんと 女を恐迫し

隙を見て現金窃取 平署で犯行自白

二十七日午前十一時頃
地内を徘徊する際不審の
男を折返す中、同男は

春蘭安こりく 石城の養蠶家

普通農に變る 養蠶を棄て

石城郡地方の養蠶家は
が非常な安値だったので
想外の收購を見ながら却

柔剣道對抗試合 来る七月五日

警中對平商の 柔剣道對抗試合

警中對平商の柔剣道對抗
合は七月五日午後一時
警中柔剣道場にて開始

夏氣分濃厚 遊覽船

新舞子で 遊覽船

石城郡下の遊覽船は
上井田字港口鈴木平
店では港口より新舞子

質疑大會 石城郡農會

廿八日來郡 植田徵兵署を 視察して歸福

石城郡農會では農學術
會は七月二日午後一時
午後九時同郡農會より

窃盜 平署に検舉

平町染色組合 紛擾解決

茨城縣那珂郡八里村生
時石城郡内郷村大字宮
塚鈴木清水飯場坑夫鈴木

西村屋藥舖

西村屋藥舖
西村屋藥舖
西村屋藥舖

短期特別興行

六月三十日ヨリ
三日間限り 日延なし
伊關吳服店の
下山竹の子劇
第一回謝恩興行
木戸無料券
さし上ます 聚樂館

電話番號が 變りました

電話八六〇番
平町 新田町
青 柳

良品廉賣に勝る 商略なし

警城セメント特約代理店
釜屋商店
金物問屋
和洋銅鐵

確實敏捷は の生命なり

警城炭礦・最優等炭
石 炭 正味 十貫目
一俵金六十錢
東京瓦斯コークス一等品
コークス 一俵金一圓廿錢
木炭代用。無煙無臭。家庭用炭

阿部石炭商店

一圓十錢のフランズ
マルソー會社元詰
マルソー、ブルンジ 生葡萄酒
優良にして安價賣行飛ぶが如

西村屋藥舖

西村屋藥舖
西村屋藥舖
西村屋藥舖